



りすぐみだより 9月



朝夕の心地よい風に、秋の気配を感じる季節となりました。りすぐみの子ども達は気候のいい日にバギーに乗って散歩に出かけています。散歩コースの途中、風に揺れる稲の様子を見ていると、どこからか赤トンボが飛んできました。Aさんは赤トンボに気が付くと指をさしながら「あ！あ！」と声をあげていました。「赤トンボだよ。たくさん飛んできたね」と声をかけると、必死に目で追いながらバギーの手すりを叩いて、驚きを表現していました。



お散歩大好き！

散歩に出る機会も増え、最近ではバギーの準備を始めると“はやくいこう”というような表情で楽しそうに声を出しながら、テラスまでくる様子が見られます。先日は隣の畑に子ども達の顔よりも大きなヒマワリを見に行きました。

ヒマワリをじっと見上げているBさんに「大きなヒマワリだね。」「こんにちわってしているみたいだね」と話していると、Bさんはヒマワリを指さしながら「あーうー」と言い、顔を下に向けるような仕草をしていました。その様子を見た他の子ども達もヒマワリを見上げながら指をさしたり、のぞき込んだりして子ども同士で会話をしているようでした。

今後も子ども達と一緒に、秋の自然を見つけていきたいと思います。



スプーンはいつから？

手と指の発達には『手のひらでつかむ(5カ月頃)』『手全体でつかむ(6カ月頃)』『親指側でつかむ(7~8カ月頃)』『親指と人差し指でつかむ(10~12カ月頃)』と段階があります。親指と人差し指でつかめるようになったらスプーンを使い始めてみましょう。

実際に自分で食べるようになると、手のひら握り(1歳)→指握り(1歳~2歳)→鉛筆握り(2歳後半)というステップで進んでいきます。

ただし、月齢はあくまでも目安です。食べる機能の獲得には、『きちんと座れる』などの筋力の発達のほか、手や指、腕、肩などの発達が大きく関係しています。個人差もありますので、月齢や年齢にこだわらず、全体の発達をみるのが大切です。

玩具を持つ、積み木で遊ぶ、スコップで遊ぶ。といった日常生活の中の動作で手の使い方が身に付くにつれて、より持ちやすい・すくいやすい・食べやすい方法に、自分からスプーンを持ちかえるようになります。

